

令和6年度 豊丘村の健全化判断比率等について

1 財政の早期健全化・再生に関する指標

(単位：%)

項 目	比 率	早期健全化基準	財政再生基準
実 質 赤 字 比 率	— (▲23.99)	15.0	20.0
連 結 実 質 赤 字 比 率	— (▲46.44)	20.0	30.0
実 質 公 債 費 比 率	12.0	25.0	35.0
将 来 負 担 比 率	— (▲97.2)	350.0	

※実質赤字比率、連結実質赤字比率について収支が黒字の場合は「— (該当なし)」で表示し、参考に黒字の比率を (▲) で示す。

(1) 実質赤字比率

一般会計の実質収支は黒字であり、実質赤字比率は該当しない。

(2) 連結実質赤字比率

一般会計等の実質赤字及び公営企業会計の資金不足はいずれも生じておらず、連結実質赤字比率は該当しない。

(3) 実質公債費比率

直近3年間（令和4年度～6年度）の平均値で算出する比率である。令和6年度の単年度比率は、一般会計債でR2緊急自然災害防止対策事業債、R3緊急防災・減災事業債等の元金償還が始まったことで元利償還金の増加（前年比+29,837千円）があったものの、公営企業債の償還が進み一般会計から繰り出す準元利償還金が減少（前年比▲44,659千円）し、分子全体が4,041千円減少した。一方、分母は標準税収入額、普通交付税額の増加があり、前年度より109,786千円増加したことで、6年度単年度比率は、5年度単年度比率の12.0%より0.6ポイント減少（改善）し11.4%となった。

4年度単年度比率（12.7%）を合わせた直近3年間の平均値は12.0%となり、前年度より0.2ポイント上昇した。

(4) 将来負担比率

一般会計地方債現在高の減（▲55,008千円）、下水道事業債の償還の進行による公営企業債等繰入見込額の減（▲12,699千円）、広域連合起債償還のための負担見込額の減（▲13,494千円）により、将来負担額は対前年比72,154千円減少し5,298,340千円となった。一方、将来負担額から控除する充当可能財源等は、6年度に公共施設等維持整備基金及びふるさと納税寄附金基金に計750,000千円を積み立てたため、前年度より751,236千円増加した。その結果、将来負担比率は▲97.2%となり、前年度の▲69.8%からマイナス幅が拡大し、比率が改善した。

道の駅整備に係る多額の起債借入により平成29年度にプラスに転じた将来負担比率であるが、交付税措置率が低い起債の借入をとりやめたこと、将来の財政需要に備えた基金の積み増しにより、数値は徐々に改善している。

$$\frac{\text{将来負担額 } 5,298,340 \text{千円} - \text{充当可能財源等 } 7,944,220 \text{千円}}{\text{標準財政規模 } 3,056,338 \text{千円} - \text{算入公債費等の額 } 337,019 \text{千円}} = \blacktriangle 97.2\%$$

(前年度:  $\blacktriangle 69.8\%$ )

< 将来負担額 >

地方債の現在高	3,473,891千円	(前年比 $\blacktriangle 55,008$ 千円)
公営企業債等繰入見込額	1,089,951千円	(前年比 $\blacktriangle 7,973$ 千円)
一部事務組合等負担見込額	79,858千円	(前年比 $\blacktriangle 13,494$ 千円)
退職手当負担見込額	654,640千円	(前年比 $+4,321$ 千円)
計	5,293,614千円	(前年比 $\blacktriangle 72,154$ 千円)

< 充当可能財源等 >

充当可能基金	4,684,332千円	(前年比 $+756,677$ 千円)
充当可能特定歳入	2,406千円	(前年比 $\blacktriangle 802$ 千円)
標準財政需要額算入見込額	3,257,482千円	(前年比 $\blacktriangle 4,639$ 千円)
計	7,944,220千円	(前年比 $+751,236$ 千円)

2 公営企業の経営健全化に関する指標

(単位: %)

公営企業会計名	資金不足比率	経営健全化基準
水道事業会計	— ( $\blacktriangle 240.2$ )	20.0
下水道事業会計	— ( $\blacktriangle 218.6$ )	20.0

※資金不足比率が算定されない場合は「— (該当なし)」で表示し、参考に黒字の比率を( $\blacktriangle$ )で示す。

(1) 資金不足比率

いずれの公営企業会計も資金不足は生じておらず、資金不足比率は該当しない。

① 水道事業会計

$$\frac{\text{資金不足額 (黒字の場合はマイナスで表示)} \quad \blacktriangle 289,595 \text{千円}}{\text{事業の規模 (営業収益の額 - 受託工事収益の額)} \quad 120,541 \text{千円}} = \blacktriangle 240.2\%$$

(前年度:  $\blacktriangle 203.8\%$ )

② 下水道事業会計

$$\frac{\text{資金不足額 (黒字の場合はマイナスで表示)} \quad \blacktriangle 196,349 \text{千円}}{\text{事業の規模 (営業収益の額 - 受託工事収益の額)} \quad 89,822 \text{千円}} = \blacktriangle 218.6\%$$

(前年度:  $\blacktriangle 208.5\%$ )